

リスクコミュニケーション

堀口逸子

順天堂大学医学部公衆衛生学教室

熟達化の5段階モデル

2006 松尾陸



■ 熟達者

- 「ゼツタイ間違えない」「困ったときの〇〇さん」
- 未知の事態の対応ができる(その場でやり方を作り出せる)

■ 上級者

- 部下を教えることができる。
- 過去の事例を引き出せる

研修の対象者は
どの段階？

■ 一人前

- ルールに縛られず臨機応変に対応できる。
- 仕事の全体的な責任を負うことができる。
- 複数の選択肢を想起できる。

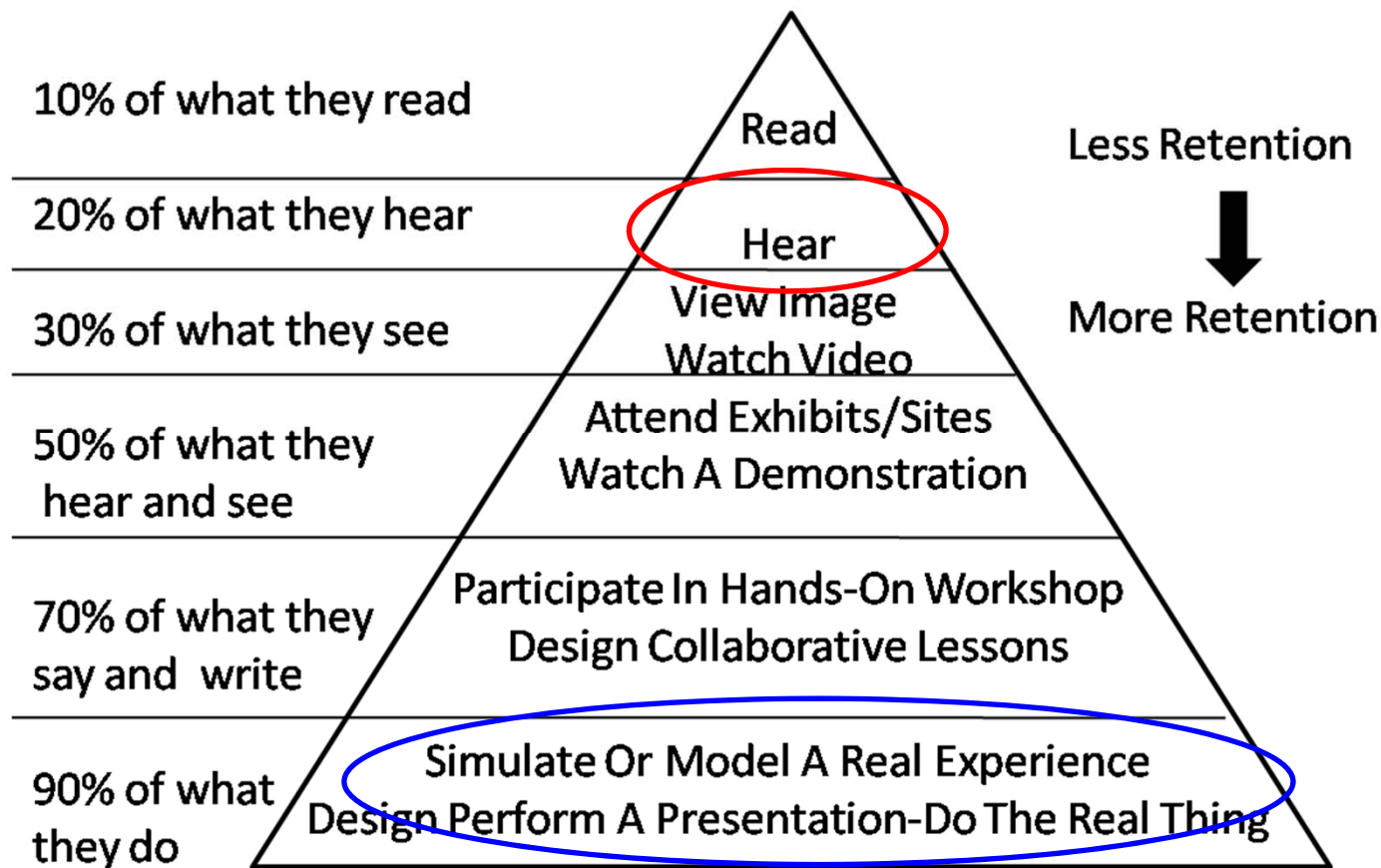
■ 見習い

■ 初心者

- 柔軟性がなく、ルールに縛られる。決まり事があったほうが楽と感じ、結果に対する責任を追わない。

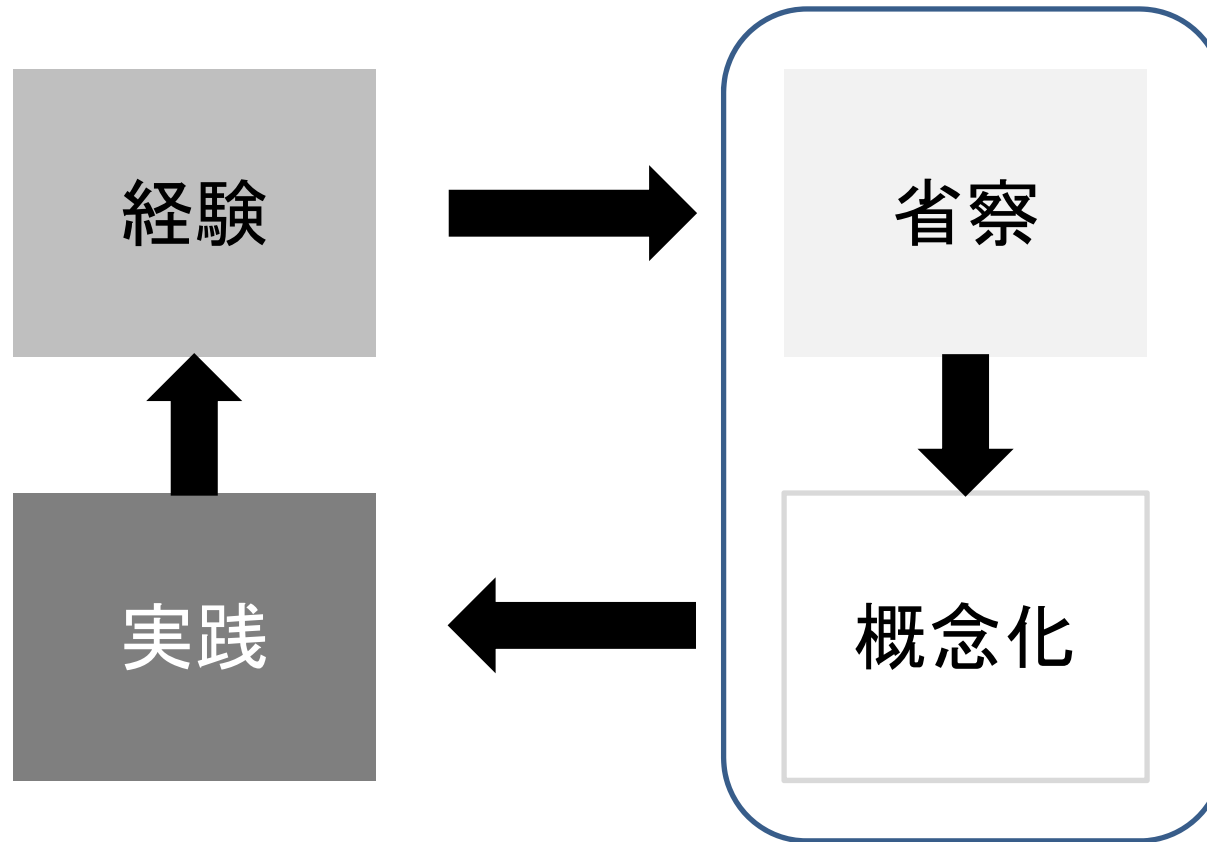
研修

People generally remember:



経験学習モデル

- Experiential Learning Model (Kolb 1984)



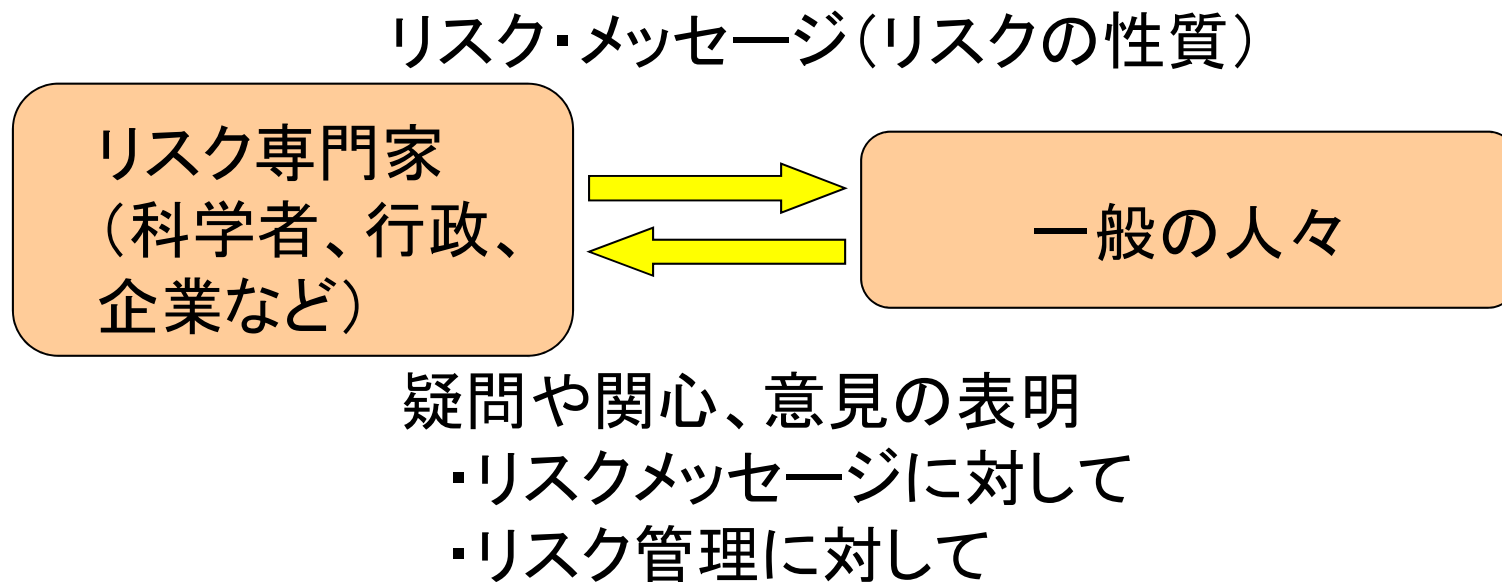
リスクコミュニケーションの定義

個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりの相互作用的过程

相互作用的过程

- 行政や企業、科学者に代表されるリスク専門家から情報が一方方向に伝えられることではない
- 多くの個人や利害関係者の団体が、リスクについての疑問や意見を述べる
- リスクに関する情報を交換し、ともに意思決定に参加する

リスクコミュニケーション概要図



リスクコミュニケーションに含まれる 2種類のメッセージ

- リスクの性質について
- リスクメッセージに対する、またはリスク管理のための法律や制度の整備に対する、関心、意見および反応を表現する

リスクコミュニケーションの手法

- 新しいあるいは特殊なコミュニケーション手法があるわけではない
- コミュニケーション技術としては、従来からの心理学のコミュニケーション研究の成果が生かせる

リスクコミュニケーションの 送り手の4つの義務

- 実用的義務
危険に直面している人々が、その被害を避けることができるように情報を与えなければならない。
- 道徳的義務
人々が選択を行うことができるように、情報に対しての権利を持っていることを保障するもの。
- 心理的義務
人々は情報を求めていることを前提としたもの。
- 制度的義務(政府に課される)
人々は、政府がリスクを効果的(リスク削減)かつ効率的な方法(費用対効果)で規制することを期待しており、この責任が政府によって適正に果たされているという情報が伝達される。

「専門家」といわれる人々の課題

- の専門家が○○を語る
 - ウイルスの専門、感染症臨床の専門
 - 疫学や社会調査の専門
- 自身の研究していないことまで、知りえた知識として立場を利用し語る
 - 想定できない質問があるため双方向コミュニケーションには問題となる
- 自らの正しさに確信を持ちすぎている
- 専門家間での相違
- 素人の参加を阻む意識
- 一般の人々のニーズに合った情報の提供
- コミュニケーション能力

リスク認知

- 人々が被害の重大性をどのように考えるか
- 被害がどの程度の確率で起こると考えているか
- 恐ろしさ(恐ろしい／恐ろしくない)と未知性(未知と既知)

リスク認知：こわい・おそろしい

- 非自発的にさらされる * 大気汚染
- 不公平に分配されている * 原子力発電
- 個人的な予防行動では避けられない
- よく知らない、新奇なもの
- 人工的なもの
- 隠れた、取り返しのつかない被害がある * 放射線被爆
- 小さな子どもや妊婦に影響を与える、後世に影響を与える
- 通常とは異なる死に方をする
- 被害者がわかる
- 科学的に解明されていない
- 信頼できる複数の情報源から矛盾した情報が伝えられる

リスク認知 合理的な判断ができない

- リスク評価とリスク認知との間にずれがある
- 個人によってリスク認知に差がある
- 専門家と素人との違い
- 出来事の記憶しやすさ、想像しやすさによって影響を受けやすい
- 小さいリスクを過大評価、大きいリスクを過小評価
- 個人的なリスクについては過小評価(対岸の火事)
- 自分にはふりかからない(リスク回避行動の妨げ)
- 単にリスクがあることを指摘するだけでは、かえってリスク認知を高めて必要以上に恐怖を感じる(どのようなリスクかを伝える)
- 強固な信念は変えがたい
- リスク情報の提示の仕方を少し変えるだけでリスク認知を変えることができる(フレーミング効果)
 - * 生存率と致死率
- 自分もっている認知要素間に矛盾(不協和)が生じるとそれを解消しようと動機付けられる(「酸っぱいブドウの理論」)
 - * 原子力発電所は危険である／自分がその近くに住んでいる(不協和)
- 自然災害と科学技術の事故では、科学技術の事故のリスクは高く見積もる傾向がある
 - * 避難をなかなかしない(自然災害)、パニックがおこる(科学技術の事故)

リスクコミュニケーションの問題 —送り手の問題—

- 4つの義務を果たす意思がない
- 4つの義務を果たすための技術的問題がある
- 受け手のニーズに配慮しない
 - ✓ 送り手の判断で情報が加工されている
- 受け手の認知に配慮しない
 - ✓ リスクをどのように理解しているのか(リスク認知)
- 情報量を制限する(パニックを起こすから・・)
- すばやく対応しない

リスクコミュニケーション

■ 平時と緊急時

■ 個人的選択と社会的論争

✓ 個人的選択

どう行動するかが個人に委ねられている

例) 喫煙

✓ 社会的論争→合意を得るのは容易ではない

どのような行動をとるかを社会全体として決定しなければならない

利害関係者が多数いる、利害も相反することがある

価値観の違いが大きくなる

平時にできないことは危機時にできない

住民に伝えるべき感染症は何か？

順位	獣医師(臨床・動物園・産業) *1	行政機関(医師・獣医師) *2	臨床医師(感染症指定病院) *3
1	狂犬病	結核	HIV/AIDS
2	(高病原性)鳥インフルエンザ	インフルエンザ	結核
3	オウム病	HIV/AIDS	インフルエンザ
4	エキノコックス症	腸管出血性大腸菌感染症(O-157)	新型インフルエンザ
5	レプトスピラ症	性器クラミジア感染症	マラリア
6	サルモネラ症(食中毒・腸炎・感染症)	ノロウイルス感染症	麻疹
7	ウエストナイル熱	狂犬病	ノロウイルス感染症
8	腸管出血性大腸菌感染症(O-157)	マラリア	腸管出血性大腸菌感染症(O-157)
9	犬・猫回虫症	新型インフルエンザ	性器クラミジア感染症 狂犬病
10	皮膚糸状菌症	ウエストナイル熱	

*1 堀口逸子, 石川直子, 馮巧蓮, 城川美佳, 丸井英二 一般住民への普及啓発が必要な動物由来感染症は何か-獣医師を対象とした質的調査- 日衛誌 66 2011 印刷中

*2 堀口逸子, 柏木知子, 丸井英二 住民への普及啓発が必要な感染症は何か 行政機関感染症対策担当者を対象とした質的調査 感染症学雑誌82(2) p67-72 2008

*3 柏木知子, 堀口逸子, 石川直子, 丸井英二 住民に普及啓発すべき感染症 感染症診療に従事する臨床医を対象にしたデルファイ調査 感染症学雑誌 83(1) p12-18 2009

学びやコミュニケーションを 促進するものは

- 教科書を読むような時間ははい
- 専門家になるつもりはない
- 興味がないことは無関係

- 買ってほしいときに買ってほしいと宣伝していない

- 直接的な対話
- 相手のいるところにてていく
- ゲーミング・シミュレーションの利用

分析結果まとめ

- 病原体輸送の実態について、ほとんどの国民は知らない。
- 情報は開示すべき。
- 輸送車には専用コンテナの設置とマークの表示があると安心。
- 運搬従事者には教育が必要。
- 必要性和安全性を国が積極的にアピールすべき。
- ともかく様々な手段でアピールすべき。
- 病原体輸送は絶対に必要。

伝えたい(ねばならない)こと
教えてほしいこと

H5N1

N95

- 通常でない形式の表現をすることで、典型的な場合ではないという推論が生じる(M推意)
 - 「感染が確認されたというような話があるわけではありません」
 - 何か問題がある
 - 「H7N3ウイルスについて言えば、今回いろいろと調査をした結果としては、ヒトに重大な疾病を生じさせたという事例は見いだせませんでした」
 - 調査の仕方次第では問題が生じる
- 簡潔に言うべきなのに、わざわざ余分な限定表現をつけている

リスクコミュニケーション

■ 平時と緊急時

■ 個人的選択と社会的論争

✓ 個人的選択

どう行動するかが個人に委ねられている

例) 喫煙

✓ 社会的論争→合意を得るのは容易ではない

どのような行動をとるかを社会全体として決定しなければならない

利害関係者が多数いる、利害も相反することがある

価値観の違いが大きくなる

個人的選択のリスクコミュニケーションの目標

- 送り手側は、個人がリスク回避的に行動することができるよう、リスクを伝えること
- 受けて側は、送り手から伝えられるリスク情報が理解できるかどうかを送り手にフィードバックすること
 - * 知りたい情報があることを表明する
 - * 積極的に情報を取りに行く

社会的論争のリスクコミュニケーションの目標

- 利害の異なる関係者間で合意が形成されること
- 関係者たちが、当該の問題や行動についての理解の水準を上げ、利用可能な知識の範囲内で適切に知らされていると満足すること
- 決定過程の初期の段階からリスク専門家以外の関係者が参加すること
 - * 周辺住民に計画策定の段階から十分に情報を知らせる
 - * 住民の意思表示の機会があること
- 社会的受容(理解、納得):リスクの公平配分
- リスク専門家の決定を受け入れさせることが社会的論争のリスクコミュニケーションの目標ではない

リスクコミュニケーション

- 計画(戦略と戦術)→実施→評価
- リスクコミュニケーションに対する信頼が確保されていること
- 情報は常に不完全で誤解があるもの
- どのような人々とコミュニケーションするのか(リスク認知、ステイクホルダー)
- どのような方法をとるのか(住民参加の手法)
- わかりやすく伝える(コミュニケーションの技術)
- 何度か繰り返す

参考文献および図書

- 健康リスクコミュニケーションの手引き 吉川肇子編著 ナカニシヤ出版
堀口逸子, 黒瀬琢也, 日高良雄, 丸井英二 感染性胃腸炎対策研修プログラムにおけるゲーミング
シミュレーション利用の評価 厚生指標56(10)p.41-43 2009
山本祐子, 堀口逸子, 丸井英二 高度安全実験(BSL4)施設が稼動していない現状の問題点 感染
症専門家を対象とした質的調査 日本衛生学雑誌 64(4) p 806-810 2009.
山上文, 堀口逸子, 鈴木建彦, 丸井英二 新型インフルエンザ等に関するインターネットを利用した
質問紙調査 厚生指標56(2)p.39-44 2009
Biosecur Bioterror. 2009 Jun;7(2):227-33. Report of the International Conference on Risk
Communication Strategies for BSL-4 laboratories, Tokyo, October 3-5, 2007. Dickmann P, Keith K,
Comer C, Abraham G, Gopal R, Marui E.
ゲームの紹介: <http://gamesciencecafe.com/>
防災ゲームで学ぶリスクコミュニケーション 矢守克也・吉川肇子・網代 剛著 ナカニシヤ出版
クロスロードネクスト 吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉著 ナカニシヤ出版
クロスロード新聞 <http://maechan.net/crossroad/shinbun.html>
(財)日本公衆衛生協会 http://www.jpha.or.jp/sub/menu05_2.html
京大生協 <http://www.s-coop.net/rune/bousai/crossroad.html>